



堺シティオペラは

「堺シティオペラ一般社団法人」は、大阪の堺市で「堺市民オペラ」として誕生し、今年で45年を迎えました。オペラの公演を始めた頃から海外の歌劇場や

オペラ団体と一緒にオペラを作り、2006年には、日本のオペラ団体で初めて

イタリアのブッチーニフェスティバルで、「蝶々夫人」を現地の歌手やオーケストラと一緒に公演しました。そして、その作品のすばらしさは『真実の日本の美しさ』として

新聞やテレビでも大きく取り上げられ、とても喜ばれました。2019年には

日本とオーストリアの国交150年を祝って、ウィーンで堺シティオペラオリジナルの

オペラ『ヘンゼルとグレーテル』を行い、現地の皆さんに喜ばれました。同じ年、堺市に

新しいホール フェニーチェ堺が完成し、出演者・スタッフ合わせて350人以上で

オペラ『アイーダ』を公演し、その大スペクタクルオペラは、日本全国から注目され、

この年の大阪文化祭の最高の賞に輝きました。



令和5年度

一学校巡回公演事業一

堺シティオペラ オペラ

『おこんじょうるり』

「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

独立行政法人 日本芸術文化振興会

さかい
堺シティオペラ
オペラ
『おこんじょうるり』

どんなお話??

■昔ある村に、ひとりぼっちで目の見えない病気のいたこばさまがいた。その家に腹をすかせた“おこん”というお腹をすかせた子ぎつねが餌を盗みに忍び込んだ。だが、ばばさまは、じっさからもらったなけなしのお弁当まで食べさせた。ぎつねは感謝し、じょうるりの念力で、ばばさまの病気を治してやった。それから二人は助け合って暮らし始めた。ばばさまはおこんのじょうるりに合わせて口を開け、ばばさまが語っているように見せかけた。ばばさまの神通力がうわさとなり、お姫様の命を救った。そして殿様から褒美をいただいた。その帰り道、盗賊に襲われ、おこんはばばさまの身代わりとなって死んでゆく・・・

■寂しいもの同士が、運命的な出会いにより一時幸せな暮らしを送るが、最後は悲劇的な結末でありながら、心温まる感動的な結末の物語。

オペラって?

日本語にすると「歌劇」

「物語を音楽で進め、その内容を歌って表現する劇」です。
1600年ごろ イタリアで生まれました。

マイクを使わなくても会場中に響く声。
喜びも悲しみも怒りも楽しさも、歌声とお芝居で表現します。

原作 : さねとうあきら
作曲 : 林光

演出 : 茂山千三郎
演出補助・構成 : 坂口茉莉

指揮 : 藤村知史
ピアノ : 尾上理絵
琵琶 : 熊田かほり

おこん : 高嶋優羽
ばばさま : 糀谷栄里子
じんさ : 榎貴志
ごんすけ : 孫勇太

舞台監督 : 青木一雄